

上野の 寄り道 散歩道

第10回

「国立西洋美術館」

東京藝術大学がある上野は、歴史や伝統と新しい文化が交差するスポットとして、観光に訪れる人も多い。藝大のすぐ近くにも、由緒ある杜寺や老舗、意外なエピソードを秘めた穴場が目白押しだ。大学から少しだけ足を延ばして、小さな旅に出てみよう。



正面に立つのは、20世紀を代表する建築家ル・コルビュジエが設計した「本館」

© 国立西洋美術館

1 本館・前庭

日本を代表する美術館建築であり、上野のシンボルともいべき建物。国の登録記念物(名勝地関係)に登録された前庭・園地にはロダンの「カレーの市民」を始めとする彫刻作品が展示される。



© 国立西洋美術館

JR上野駅の「公園口」の改札を出ると、彫刻が並ぶ庭の奥に、緑色の外壁で、前面が高床構造になった建物が見える。一九五九(昭和三四)年四月に、フランス政府から寄贈返還された松方コレクションを基礎に発足した、国立西洋美術館の本館である。この美術館は、広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立美術館である。

「本館」は、戦後の日仏間の国交回復・関係改善の象徴として、フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエとともに「近代建築の三大巨匠」と並び称されるフランス人建築家ル・コルビュジエ(一八七五～一九六五)の設計により、一九五九(昭和三四)年三月に竣工。実施設計は、ル・コルビュジエの弟子である三人の日本人建築家、前川國男、坂倉準三、吉阪隆正があたった。一九九八(平成十)年には建設省より「公共建築百選」に選定、二〇〇七(平成十九)年には国の重要文化財(建造物)に指定された。「サヴォア邸」「ロンシャンの礼拝堂」、「マルセイユのユニテ・ダビタシオン」などで知られる巨匠が、日本に残した唯一の作品としても貴重である。



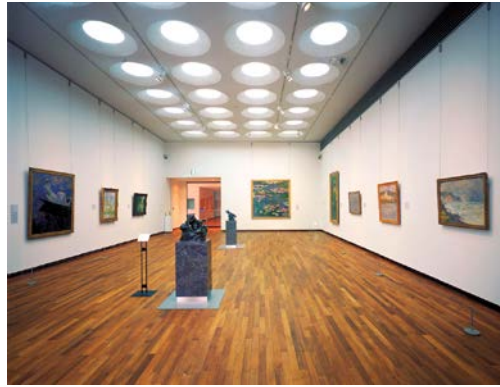
© 国立西洋美術館



© 国立西洋美術館

3 本館展示室

本館の一階から二階へは彫刻作品を眺めながら上れるように、階段ではなく、傾斜のゆるいスロープとなっている。二階は吹き抜けのホールを、回廊型の展示室が取り囲む。



© 国立西洋美術館

2 19世紀ホール

本館二階の中央部分は、屋上の明かり取り窓まで吹き抜けとなったホールで、ル・コルビュジエによって「19世紀ホール」と命名され、現在はロダンの彫刻の展示場となっている。

4 新館展示室

ル・コルビュジエの設計した本館と一体に機能するように増築。本館と一緒になつく三本の樺銀杏木などを抱き込むように配置され、それによって緑豊かな中庭が作り出されている。



© 国立西洋美術館



国立西洋美術館
東京都台東区上野公園7-7
開館時間 9:30~17:30、金曜日は20:00まで
※入館は閉館の30分前まで
休館日 月曜日(休日の場合は翌火曜日)、年末年始
<http://www.nmwa.go.jp/>

本館の背後に立つ地上二階、地下二階の「新館」は、緑袖タイルを貼った外観が特色。美術館開館二〇周年の一九七九(昭和五四)年に開館したこの建物は、本館の実施設計者のひとりである前川國男(一九〇五〜一九八六)の設計。国立西洋美術館の向かいに立つ「東京文化会館」や、東京藝術大学の南に位置する「京都美術館」も前川の代表作だ。

本館と新館では、松方コレクションの作品、創立以来毎年購入されているルネサンス以降二〇世紀初頭までの作品、寄贈・寄託作品を常設展として年間を通して展小。また、一九九七(平成九)年に竣工した企画展示館では、欧米の美術館などからの借用作品によって特別展を年一回、企画展を年二回ほど開催している。十月七日(火)からはフェルディナント・ホドラー展が行われる。

モダニズム建築の機能美と、展示作品の素晴らしさが融合した国立西洋美術館は、上野の杜の誇りといふべきものである。